

「公印省略」

25病防第29号
平成25年4月5日

各関係機関団体の長
各病害虫防除員 殿

福岡県病害虫防除所長

平成25年度病害虫発生予察速報第2号について

このことについて、病害虫発生予察速報第2号（麦類赤かび病）を発表したので送付します。本年は3月の平均気温が高く経過したため、麦類の出穂期が平年並～2日程度早いとされています。これにともない、防除時期も平年より早くなりますので、適期防除に努めてください。

速報第2号

- 1 対象作物：小麦、二条大麦
- 2 病害虫名：赤かび病
- 3 発生地域：県下全域
- 4 発生時期：平年より早い
- 5 発生量：平年並
- 6 速報の根拠

- (1) 11月中旬は種の小麦および11月下旬は種の大麦の出穂期は、平年並～2日程度早いと予想されている（第1表）。
- (2) 福岡管区気象台の1か月予報（3月29日発表）によると、向こう1か月の降水量は平年並か少ないとされている。平均気温は4月6日～12日が平年並か低く、4月13日～26日が平年並とされている。
なお、平年並の気温は、太宰府では4月6日～12日が13.2℃、4月13日～26日が15.0℃である。
- (3) 赤かび病は開花期に曇天、降雨が続き、比較的暖かい（平均気温およそ18℃以上）と、多発生しやすい。

7 防除上注意すべき事項

- (1) 本年の麦類の出穂期は、3月21日時点では平年並～2日程度早いと予想されているが、現在の麦の生育状況から、さらにやや早まると考えられている。そのため、防除適期は平年より早くなるので注意する。
なお、出穂期は、播種日、品種及び今後の気温の変動等により異なるので、第1表を参考に、ほ場ごとの出穂状況を把握し、適期防除に努める。

- (2) 小麦の防除適期は開花期（出穂期後7～10日頃）である。
 なお、1回目の防除を実施後、降雨が続く場合はその7～10日後に2回目の防除を行う。
- (3) 二条大麦の防除適期は、穂揃期の約10日後（出穂期後12～14日、蒴殻が抽出し始める頃）である。
- (4) 裸麦の防除適期は、出穂後2～4日頃である。
- (5) 降雨の合間に薬剤防除を行う場合、液剤は散布後一旦乾けば降雨があっても薬剤の効果はある。しかし、粉剤の場合は、散布後6時間以内に降雨があった場合は薬剤の効果は低下するので、降雨情報に注意する。
 なお、薬剤散布後に降雨があり、再度散布すると散布回数は2回とカウントされるので注意する。
- (6) 防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。特に、小麦、大麦で農薬使用基準が異なる薬剤が多いので注意する。
 また、周辺圃場への飛散防止対策を講ずる。

第1表 農業総合試験場における麦類の出穂期
 (平成25年3月21日発表)

麦種	品種名	播種期	予 想 出穂期	同 左 平年差	同 左 前年差	調査地点
小 麦	シロガネコムギ	11/20	4/9	±0	-2	大木町
	チクゴイズミ	11/20	4/10	-2	-4	筑紫野市
	ちくしW2号	11/20	4/9	+1	-2	大木町
		11/20	4/9	-3	-3	筑紫野市
大 麦	ほうしゅん	11/27	4/9	-2	-5	筑紫野市
	しゅんれい	11/27	4/10	-4	-6	筑紫野市
	はるしずく	11/26	4/6	-1	-1	大木町

注1) 平年値はH14～H23年播の平均値。

注2) この値は暫定値で、今後変更することがある。

注3) 前年比(差)、平年比(差)：草丈および莖数は前年比および平年比、出芽期および葉数は前年差および平年差を示す。

注4) 予想出穂期は今後の気温が平年並で推移した場合の出穂期。

過去の播種期および出芽期から出穂期までの積算温度とこれまでの積算温度および麦の生育状況から予想した。